

Ⅲ 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

経済学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

経済学部は、経済学・経営学・法学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。その目的を達するためのカリキュラム編成、並びにそのために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	文化・自然、現代社会と生活だけでなく、社会科学系以外の分野に関する幅広い知識を修得するために、高等学校で履修する幅広い教科や科目の知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習能力が必要です。
インターフェース科目	大学での「学び」と現代社会との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部専門科目	経済学・経営学・法学の分野を総合的に学ぶとともに、所属学科の専門分野の知識、並びに社会や経済に関する課題を発見し、その課題に向けて専門知識を活用する能力を修得するために、高等学校で履修する国語、地歴、公民、数学、英語といった幅広い教科・科目の基礎的理解だけでなく、資料や情報を読み解く力、自分の考えを論理的に展開し表現する力が不可欠です。また、専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるための外国語科目を配置しているため、英文の資料を理解するための基本的な英語の学習能力が必要です。さらに、少人数による演習を1年次から行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることも重要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

経済学科

経済や社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を十分に習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を

持った学生を歓迎します。

経営学科

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報に基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが望まれます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

経済法学科

経済と社会の規範である法律について理解するためには、十分な国語力だけでなく、経済や社会、さらには政治についての知識が必要であり、そのためには、歴史や地理などの幅広い知識も重要なものとなります。また、国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。そのうえ、本学部では経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことも、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入試者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■全学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 経済学部で学ぶために必要な基礎的な学力・学習力
- ⑤ 志望学科に関する専門分野に関心があり、主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「知識・技能」「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	88					
		個別試験	○	12				
		特色加点						☆
	後期日程	共通テスト	88					
		個別試験	○		12			
		特色加点						☆

選抜 方法	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○		83				
		面接					◎		
		志願理由書						◎	
		推薦書	○					◎	
		調査書	○					◎	
		基礎学力・学習力テスト				17			
		活動実績報告書（加点式）							☆

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
- ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）
- iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
- iv. ☆は、加点評価
- v. 2022年度は面接をペーパーインタビューによって代替することがあります。